

(2) 平成21年産水陸稲の収穫量(北陸)

1. 北陸地域における平成21年産水稲の作柄は、全もみ数が「平年並み」となり、登熟は「平年並み」となったことから、10a当たり収量は528kg(作況指数99)、収穫量(子実用)は110万8,000t(前年産対比96.9%)となった。

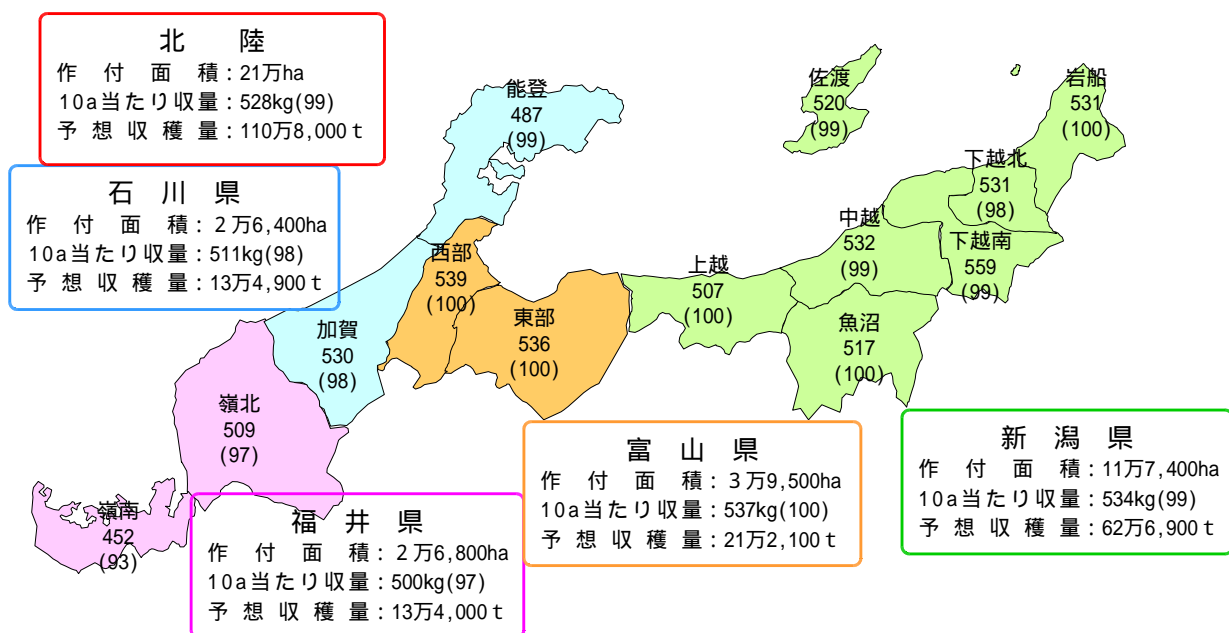
県別にみると、新潟県は534kg(同99)で62万6,900t(97.3%)、富山県は537kg(同100)で21万2,100t(96.8%)、石川県は511kg(同98)で13万4,900t(97.0%)、福井県は500kg(同97)で13万4,000t(94.5%)となった。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量(主食用)は、106万2,000tとなった。

2. 平成21年産水稲の被害量は5万3,200t、被害率は4.8%で、平年並みとなった。

3. 平成21年産陸稲の作付面積(子実用)は4ha(前年産対比80.0%)で、収穫量(子実用)は10t(同76.9%)となった。

県別・作柄表示地帯別にみた水稲作付面積、10a当たり収量及び予想収穫量(子実用)



(注)

作付面積は、青刈り面積を除いた子実用の作付面積である。

主食用作付面積とは、水稲作付面積(青刈り面積を含む)から、生産調整カウントとなる米穀等(加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積である。

作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり(予想)収量の比率である。

作柄表示地帯別とは、地域行政上必要な水稲の作柄を表示する区域として、都道府県を水稲の生産力(地域、気象、栽培品種等)により分割したものである。